

新年謹賀

大師明神御邂逅1200年



轉法輪

如來の説法は
病に応じて薬を投ぐ
根器萬差なれば
鍼灸千殊なり

弘法大師

平成二十七年元旦発行
〒六三七一〇〇七二
奈良県五條市大飼町一二四
電話〇七四七一三一四四〇三
FAX〇七四七一五一四七一七
編集発行人 桑山聖淳

印刷所 和・伊都郡かつらぎ町妙寺
森本印刷工業所

高野山開創 千二〇〇年
平成二十七年 乙未 元旦

あけまして
おめでとうございます

新しい年を迎え

皆々様のご健勝とご多幸を
心よりお祈り申し上げます

初詣にお参り下さい

十一月三十一日(水)

除夜の鐘

一月一日(木)・二日(金)

甘酒接待

一月三日(土)九時半より

お鏡開
せんざい接待

犬飼山轉法輪寺

名譽住職 桑山聖淳

住職 桑山聖淳
後住桑山聖淳紹規

〈お大師さまのお言葉〉仏さまの教える説きかたはさまざまである。それは病気に応じて治療法が違うように、救いを求める人に合うように与えられている。

新年のご挨拶

住職 桑山慈紹



新年あけまして
おめでとうございます。
旧年中は大変お世話になりました。
本年も宜しくお願ひ申しあげます。
さて本年は、高野山御開創千二百年
と共に大師明神御邂逅千二百年の聖年
を迎えます。高野山では、来る四月二
日より五月二十一日までの五十日間、
御開創記念大法会が執行されます。
よつて当山では、来る三月二十一日

弘法大師月並御影供の日に、高野山不滅の御聖燈と飛行三鉢をお迎えして、お待ち受け法要を盛大に行います。不滅の御聖燈とは、高野山奥之院に千年近く、連綿と輝き続ける永遠の聖燈であります。飛行三鉢とは、お大師様が唐の国よりご帰朝される折、明州の浜より投げられたもので、高野山の三鉢の松に縣つていたものです。此度お越し頂く御本尊様は、お大師様の飛行三鉢の御精根が入った「祈念三鉢」と高野山靈木の「撫で三鉢」、奥之院に輝き続ける「不滅の聖燈」であります。皆様この勝縁を逃すことなく、御参詣のうえ尊きご縁をお結びください。

さて今年は未年です。未は方位では南々西で、時間では十四時を中心とする二時間です。

最も陽気盛んな時間帯です。古代には、ひとつじは山の神とされ、めでたいしるしとされていました。この陽気盛んでもめでたい年を迎える大師・明神の御加護のもと、檀信徒各家の皆様の御健勝と御多幸を心よりお祈り申しあげます。

3月21日(土) お待ち受け法会

～飛行三鉢・不滅の聖燈 全国結縁行脚～



三鉢と聖燈は昨年4月6日に北海道を出発し、全国を巡って多くのご縁を結んできました。

結願である金剛峯寺を目前に控え、平成27年3月21日の当山御影供にお迎えして法会を執行いたします。ぜひ皆さまこのご縁にご参詣下さいませ。

不滅の聖燈は、1000年ものあいだ奥の院で守り続けられている火です。この聖燈をお仏壇のご先祖さまにお供えしてはいかがでしょうか。

法会にて、お迎えした御聖燈を分燈させて頂き、各自お持ち帰り頂きたいと思います。近隣のお方は線香にて、遠方の方はハクキンカイロに移すことで、自宅まで火種を守ることができます。カイロを希望される方は必ず事前にお申し出ください。

○ハクキンカイロ (1個) 3000円 予約された方のみ、ご用意致します。

輪

法

家相方位盤



歳破金神とは、太歳神という神様と戦い、いつも負ける、所謂『負神様』で丑(北北東)に位し、普請・移転・旅行・縁組を求めるは、凶といわれています。

歳破金神

五黄殺とは、強烈な土に戻す作用を起す方崇りで、命を落とすか、財産をゼロにしてしてしまうこともあります。五黄殺の特徴は、暗剣殺とは対照的でゆっくりとしぶとく何度もあらわれ、向こう五十年間も祟ると恐れられています。

平成二十七年乙未(きのとひつじ)は三碧木星が中央に巡ります。よって本宅中心(または自分の寝室)より東(卯・三十度)に暗剣殺、西(酉・三十度)に五黄殺、歳破神が北北東(丑・三十度)に巡り、老若男女を問わず大凶です。

**新年あけまして
おめでとうございます。**

暗剣殺とは、読んで字の如く、暗闇から剣が飛び出して来て殺すということで、ビックリするような災難が、外から急に鋭く深く激しく降りかかるてくる方崇りをいいます。

五黄殺とは何か?

五黄殺とは、吉凶があることは無視できません。方位の吉凶を知り、暦を上手に使うことが開運につながります。

方位を超えて

新年を迎えて種々様々な計画をされていることと存じます。建築などのことでご不明な点がございましたら、家の平面図をグラフ用紙に正確に書き、磁石をふって南北線を記入した図面と、ご家族の生年月日を添えてお尋ねください。

平成二十七年度
乙未年

方位の吉凶

住職 桑山慈紹

これらの方位に今年、新築・増改築・土木工事・開店・結婚・出産・長期旅行・就職・進学・転宅・契約等々は極力避けるのが賢明でしょう。

暗剣殺とは何か?

本年の恵方(あきの方位)
本年の歳徳神は、庚(かのえ)申と酉の間で恵方(よい方位)です。但し方神殺にはさまれた少範囲です。新年を恵方位の神仏に祈るも有難い事です。
本来西方には、阿弥陀如来がおられます。

ご真言に

おんあみりたていせいからうん
とお唱えし、

南無大師遍照金剛

と唱えて、恵方の徳をいただきましょう。

生かせしのち

【第四十四話】

名譽住職 桑山聖規



んご承知の事と思います。高野山の地主神である狩場明神と空海上人が御邂逅になつた靈地であり、高野山発祥の靈地とされる当山でも、記念の法会を予定しております。皆さまのご援助をお願い申上げます。

法会において大切なのは、大師の御教えの根本を分かりやすく説いて、多くの方がこれにより救われることです。その御教えとは何でしようか。

大師の説いた教えの根本に「即身成仏」があります。生きている間に、この身このまま仏となることです。「仏になる」とは、金ぴかの仏像になることではありません。自分が真に仏の子であると自覚することです。

乙未新年の新年を迎ました。謹んで三宝に敬礼し、皆さまのご多幸を心よりお祈り申し上げます。

弘仁七年に空海上人が高野山を開創されてより、今年（平成二十七年）が一二〇〇年に当たり、記念の大法会が高野本山で執行されますことは、皆さ

たり前のように思つてしまします。しかし当たり前にあるのが、一番ありがたいことです。五大のどれが欠けても、私たちは生きてはいけません。無償で無量・無限の、仏の慈悲の恵みを私たちはいつも受けているのです。

この「当たり前」に気づいた時に感謝が生まれます。大師はこの有難さに気づき、仏の慈悲の心を自らの心と重ねられました。衆生を生かし、安樂にするための努力を終生続けられ、ご入定の時には、この世界が無くなる時まで衆生を救い続けるという誓いを立てられています。

大師の弟子である私たちは、自分一人のために祈るのではなく、私の家も街もみな幸せであるように、そして天下泰平・万民安樂のためと祈りを大きく広げましよう。皆がお互いの幸せを願つていれば、地上の樂土が生まれることでしょう。この世を極楽に、生きている間に皆が生き仏となれるようになると悟つたのです。私たちは大日如來のふところで、大日如來の恵みによつて生かされている子どもだと気づくことが出発点となります。

地水火風空があることは、誰でも当

南無大師遍照金剛

毎月21日の大師感謝祭、28日の不動尊護摩供には是非皆様お誘い合わせお参り下さい。
ご希望の方には月参祈願朱印帳を差し上げます。

轉法輪

九月二十八日護摩供

高野山足湯隊を迎えて

西吉野町和田 光明院

住職 岩井恵照

足湯を体験して

先ず、説明を聞きながら実演を見学して、足湯の手順を教わりました。次にグループに分かれてスタッフの方が足湯を施されるのを間近で見学させて頂きました。二度続けて見学したので「私にもできるかな」と思い、実際に足湯を施す側に廻りました。

ご挨拶の後ご希望の香りのお湯を用意して両足をゆっくりお湯に浸けさせて頂くと「気持ちいい」と笑顔があふれて今まで嬉しくなつてきました。手や二の腕の手技になると又々「気持ちいい」の連発で「永年立ち仕事をしていたので腰や足を痛め右足が冷えるんです。暖めるといいのですね」と話して下さいました。さし湯をして両足を温め、膝の上で片足ずつ拭いて終わる

と大そう恐縮しておられました。

次にお一人に足湯をさせて頂きました。最初の方と同じく「気持ちいい」と満足そうなお顔を見て私自身が施され笑顔になりました。

三人の方に足湯を施させて頂きましたが、慣れないでの次は何をして次はこうして…と順序を考えながら、自分の体勢にまで気が廻らず「もつと近づいて」とこ指摘を頂きました。そん

な次第で、隊長様がお話下さった「み佛様のみ足を頂礼する」という敬虔な気持ちを持ち続けていられたかどうかは疑問です。

今度は足湯を受ける側に廻り、顔見知りの方にして頂くことになりました。今までお話しすることはありますでしたが、足や手をやさしく温めて頂き、何だかとても親しみが湧いてきました。

夕方まで足がポカポカしてその夜はぐっすり眠れました。

被災地の皆様が足湯を施されて心が軽くなり、お互いに心が通じ合い悩み

法要の後のスタッフの方の「受けたご恩はご縁の方に繋げる」とのお話がとても心に響きました。
私もたくさんのご恩を受けて過ごして参りましたから、ご縁の方に繋げるよう心がけたいと思います。

いい体験をさせて頂き本当にありがとうございました。



心に宝を—14—

「生きる」と
「死」と

輪

法

轉

橋本市
宝形山 地藏寺

井 上 覚 善

私たちは誰しも無数の先祖が存在し、最終的に父・母の両親のおかげで「オギヤー」と(輝ける御来光の如く)生まれてきます。そして両親をはじめ多くの方々の力を借りてだんだんと成長して一人前の大人になっていきます。そしてピーク(真昼)を過ぎると徐々に無理が利かなくなつてきて、さらに色んな所が衰えてきて、(日が傾いて光が弱くなつて行く様に)、病気になつたり怪我をしたり、またあるいは認知症になつたり身体が不自由になつたり、自分の身の回りの事も出来なくなつたりして、やがては先祖や両親からお借りしたこの肉体をお返しする

「死」(日が沈む)が、誰しもいつか必ずやってきます。
ですから「生きる」という事は、私たち皆、いつか訪れる「死」に向かって歩んでいる事に他ならないのではないかでしようか。そしてまた、いつか必ずやつてくる「死」とは、本当に全てが無くなつてしまい何もかもが終つてしまふのでしようか。

いいえ、それは違うと思います。

生身の肉体の「死」は避けられませんが、先ほどからも例えて表現している「太陽」は、沈んで見えなくなつても、太陽自体は何ら変わることがあります。そしてピーク(真昼)を過ぎると徐々に無理が利かなくなつてきて、(日が傾いて光が弱くなつて行く様に)、病気になつたり怪我をしたり、またあるいは認知症になつたり身体が不自由になつたり、自分の身の回りの事も出来なくなつたりして、やがては先祖や両親からお借りしたこの肉体をお返しする

間の事であり、「死ぬ」とは、借りた肉体だけを返して、また「心」だけの世界に還る事であります。

生きておれば、決して良い事・楽な事ばかりではなく、逆に色々な苦しい事や辛い事や悲しい事なども数多くあります、あの世に持つて行けるのは、「自分の心」だけであります。

だからどんな境遇であつても、常に「優しさと思いやり」を忘れず、そして死を極端に恐れる事なく、明るく前向きに死を見つめながら精一杯、生きてこそ、私たちのこの限られた「かけがいのない命」は、キラキラと仏さまのように、光り輝くのではないのです。

「生まれる」とは、「自分の心」が縁ある親先祖に肉体をお借りすることであり、

「人生」とは、借りた肉体と自分の心が共に歩む限られた、とても貴重な時

合掌



輪

法

(7)

轉

四国八十八ヶ所

歩き遍路の

ちよつといい話

松山市

山本益男

歩いているときは

いろんな事に出会うのよ・・・

その15

靈場開創千二百年の今年、ゴールデンウィークの前半を久々に歩いてきました。といつても連休明けの業務資料提出期限のため徳島県最後のお寺で切り上げての短い遍路旅でした。日数は四日間。これまでの最短区切り遍路です。今回は前回に引き続き十九番立江寺からスタートし、番外星の岩屋、別格三番慈眼寺、鶴林寺、太龍寺、平等寺、そして二十三番薬王寺までの行程です。考えてみれば、これまで、自分の歩き遍路の状況をこと細かく記述した記憶がありません。お遍路の歩き方は人

それぞれでしようが今回は、ちよつと自分流のごだわりの歩き方、その辺を書こうかと思います。

第一日目、晴天の松山の自宅を出て高速バスで徳島駅、電車に乗り換え立江駅、時刻は十二時、駅で白衣を着てお遍路モードへいざ突入。

立江寺では、それこそ久々のお参りのため要領が悪く、また般若心経もたどたどしく（こんな時私は指でお経をなぞるように指読経で唱えます）意外と時間が掛かつてしましました。なんとお寺には四十五分近くもお参（迷）りました（やれやれ）。その後、気を取り直して？門前の老舗和菓子店「酒井軒本舗」さんの名物、たつえ餅、でお昼？、お餅にはもち米と古代米の黒米が使用されているそうで綺麗な紫色をしてます。中には白のこし餡が入っています（白餡で珍しいですよね♪）。塩と白餡の甘さが優しい味でございます。おいしゅうございました。腹を満たしたあとは今夜の宿泊「金子や」、十キロ先を目指して出発です！。

近年遍路道にはさまざまな道標がありますが、四国遍路千二百年の今年は何と韓国語で書かれた道標を発見。近年のお遍路さんを見掛けました。しかし韓国語の道標を貼るほど多くの韓国人が四国参りをしているのだろうかとも思います。韓国人では外観を見ただけでは日本人と区別がつきませんが、それにしても、日本人でも歩き遍路をするのはいろいろ大変なのに日本の言葉や文字、土地勘に詳しくない外国人はもっと大変だと思います。その割には、駅で見かける案内板ほど中国語や英語で書かれている道標はありません。ということは、日本人以外のお遍路さんは韓国人が多いと言うことでしょうか。いずれにしても、歩き遍路をしている人にとっては、何語でかかれていい人にとっては、何語でかかれていいようが、矢印（方向）が分かればとりあえず次のお寺にはたどり着けるのですから。近年はちよつと「へんろみち保存協力会」以外のシールがあちこち

にあるので景観が損なわれているような気がします。必要最低限、控えめで良いのではないでしょうか。遍路道沿いのゴミ問題とともに道標の乱立も大きな問題です。

文章で寄り道してしまいましたが、好天に恵まれ、歩き始めとしては脚力も快調、このままだと宿には四時前に着いてしまいそうなので、いつもの事ながら歩き遍路ならではのちよつと寄り道遍路を決め込みました。その場所とは星谷寺、別名「星の岩屋」。その昔、人々に災禍をなしていた悪星を弘法大師が法力で地上に引き下ろしてこの岩屋に封じこめたところ、悪星が石と化したため、この石を祀つたと云われている場所です。境内には樹齢約四百五十年の樟の木の巨木に不動明王を彫り込んだ「生不動のクス」や星の落下にまつわる伝説がある「不動の滝（裏見の滝）」があります。それと同時に先ほど立江寺の奥の院でもあります。でも管理はなぜか鶴林寺という不思議な場所。その後、宿の「金子や」には六

時前に到着。本当は、翌日の事を考えて「ふれあいの里さかもと」に宿泊したかったのですが、満員で丁重にお断りされてしまいました。翌日は、別格三番慈眼寺から鶴林寺を予定していましたが、天気予報では雨が降る確立が高いです。まあなんとかなるさ。どこまで行かなくてはいけないと言う制約はないのですから、足が頼りの気楽な遍路旅は次号に続きます。

最後に、薬王寺手前の美波町の小岐（きき）小学校の1クラス（何年生は不明、もちろん人数も）の皆さん、遠くからのグランドを挟んでの応援ありがとうございました。そして授業中にどうございました。そして授業中にもかかわらず許して頂いた先生にも小さな感動をありがとうございます。私も遠くからお礼を言つたけど多勢に無勢。聞こえたかな。この場を借りて御礼申しあげます。短い旅でも必ず歩き遍路には何かしら感動・感謝がついてくる。だからお遍路は止められない。それではごきげんよう（なんかいいことばですよね）。

合掌

大いなる

御手の中

(中編)

須藤脩鵬

息子の命を助けて頂いたことがありました有難く御礼にと、青森県弘前市に住む母が百巻の写経を始めました。今年八十七歳の母はもともとリューマチの傾向があり、両手の指の関節がはれおりに「筆を持つて書いていると最後の方になると指がしびれて筆を落しそうになるのよ」そう言いながらも母は十巻書き終わると、高野山の私のところに納経料を添えて送ってきます。それを持つて私が転法輪寺様に伺う、それをこの何年か繰り返していました。母は写経をする時は、まず香を焚き、筆や手を清め心を込めて写経を書きます。「写経の功德は本当に素晴らしい。書いていると自分の心得違いをすつと教えていただける。本当に有難い」そういう言いながら母は、続けて「為須藤家

轉法輪

先祖代々 精靈靈菩提」百巻、娘である私のために「為滅罪生善・身體健全」百巻、ついに写経三百巻を結願しました。

転法輪寺様では、写経を百巻納経すると寺宝のお大師様の御影の額がいただけます。その額を、ありがたく秋田の兄・弘前の母・高野山でそれぞれが拝んでおります。

その母が三十年来苦しんでいる虚血性大腸炎の発作に続き、全身の痛み、そして偽痛風右肘結晶性関節炎の激痛に襲われ、今年の連休に整形外科に入院しました。母の急変を知り、すぐ桑山聖規名誉御住職様に御祈祷をお願いした。三十九度を超える高熱も出て、母は痛みと熱に苦しみました。偽痛風は右腕を切り落としたいほどの激痛でした。今回母の容態があまりに痛みが過酷に続いたので、命の危険を感じました。私は本当に心配いたしました。入院したりとお手当てを頂き、痛みと熱が快

方に向いました。

そんな朝、病院のベッドの上でまだ起き上がり、右手もうまく上ががらずきちんと合掌もできなかつたものの、

朝に晩に手を合わせていて転法輪寺様の額のお大師様の御影を思い浮かべて、激痛が治まつたことの御礼のお祈りを始めたところ、驚くべきことが起きました。いつもの額のお大師様が、やおらすくつと立ち上がり、額から出てきて、左足を前に膝をぐつと曲げて体重をかけ、股を割つて右足を後ろに引き踏ん張つた姿勢のまま、いつも手持つていてる何かで、気合鋭く母の頭上・両肩・胸などをついたというのです。お大師様は見慣れた額のお姿より一層若々しく力強く、すねも筋肉たくましく裸足でおられたそうです。そして母が何より印象的に感じたのは、力をぐつといれて踏ん張つた為に、両足の親指が起き上がつていていたことでした。

お大師さまがすつと消えた後で、丸顔のお坊さんのお祈りするお顔が一つ現れたので、母は「ああ、院家さ

んがお祈り下さつて。なんと有難いことか。院家さんの貴いお祈りのおかげで助けて頂けた」そう思つたそうです。

病室に戻つた私に「全く不思議なことが起つた。こんなことがあつたんだよ。」と説明する母に、お大師さまがお持ちになつてるのは『五鉢杵』（ごこしよ）という密教法具であること、五処加持といつて身体の五箇所を御加持することが実際にあることを話しました。あまりの不思議にふたりでこの奇瑞を喜んだことでした。その後お蔭様で母は退院し穏やかな日常生活を送ることが出来るようになりました。

家に戻り、また額のお大師様の御影に手を合わせ、朝、御礼を申し上げていたところ、今度はどこからともなく得も言われぬなんとも表現のしがたい良い香の香りが立ち込めてきて驚いたというのです。なんとも有難い額のお大師様だとひたすら感激している母でした。

（後編に続く）



『大般若經典にてお加持いたします』

初大師

一月二十一日(水)

十時より

大般若經

六百卷

一 転 読 法 要

初不動

一月二十八日(水)

九時より

十二座護摩供

厄除開運・
善願成就の大祈祷

厄除開運

善願成就の大祈祷



稻荷祭

三月五日(水)

十時より



諸願成就

家内安全

商壳繁盛

犬飼山 各種教室 開講中！ お気軽にお問合せ下さい！

- ◎ご詠歌講 少人数で基礎から指導しています。お寺の行事や、本山の大会に参加しています。
 - ◎お経を習う会 仏教の基本的な教えと、「自分の心」への気づきを中心とした授業を行っています。
 - ◎タイコの会 お経を唱える時に合わせられるタイコを練習しています。28日の護摩供にも出番があります。

お寺の寺務所に長く勤めて頂ける方を募集します。

詳細は mail@inukai.info までメールでお問い合わせください！

よ鏡

1月3日(土)
午前11時半より
和太鼓奉納演舞

かつらぎ町志賀を拠点に活動する
和太鼓グループ「和太鼓 鼓舞～KOBU～」
の新春奉納演舞！新年に先駆けて、みなさまの
一層の活躍を激励します！



狩場明神御真影の授与
甘酒接待

一月一日(木)・二日(金)
開運破魔矢

般若理趣三昧
初護摩供

十二月三十一日(水)夜十一時より

除夜の鐘・百八灯明の点火

未(ひつじ)年男・年女の方大集合！

身代りお守り授与

白衣・袈裟・腕念珠をつけて九時ま
でにお集まり下さい。奉納された
鏡餅を切つていただきます。

福

お鏡開き
一月三日(土)午前九時半より

法要

おたのしみ福引き(空くじなし)
篤志者の御奉納により、千名の方に
おたのしみ福引きがあります。

ぜんざい・鏡餅接待

十二月三十一日(水)夜十一時より

除夜の鐘・百八灯明の点火



平成27年度 春の四国遍路巡拝バスツアー

阿波(徳島県)一国参り
1番靈山寺から 23番薬王寺まで
日時：平成27年3月29日(日)～3月31日(火)
2泊3日 バス
定員 40名
費用未定：5万円前後

※ 現在、行程を調整中です。詳細はしばらくお待ちください！

同行者募集！



秋の巡拝は土佐一国参りを予定しています。春秋一国づつお参りし、二年で満願いたします。

行事報告

去る十二月六日

篤志家先祖永代供養法会

内吉野支所の結集寺院と所縁寺院の僧侶の出仕が十一名、参拝の方が二百三十名と、盛大に修めることが出来ました。

講演には東日本大震災の激震地であつた宮城県亘理郡の徳本寺住職、早坂文明僧正をお招きし、葬送に関わる「僧侶」という立場での経験と、「今を悔いなく生きること」の大切さを説かれました。

写真の「まけない！」と書かれたタオルは、東北の団体が復興に向けて制作したもので、このたびの募金の御礼としていただいたものを皆様にお配りしました。このタオルを使うたびに、震災で学んだ苦しみと人間の強さを思い起されることはと思います。



星祭り結願祭

二月三日(火)十時より
—厄除のお札を
お渡しします—



星祭祈願受付中
一年間の厄除け開運のために
ご祈祷をお申し込み下さい。

個人祈祷休み 12月28日～1月4日まで